

(別紙 7)

岩手県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る計画/評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

本県では、ニホンジカは古くから五葉山地域に生息しているが、近年、県内全域へ生息域が拡大しており、農林業被害の増加や早池峰山周辺に生息する希少な高山植物への食害が進んでいる。

一方、鳥獣捕獲に中心的な役割を果たしてきた狩猟者が高齢化等しており、捕獲の担い手の育成や確保が課題となっているが、近年の普及啓発の取組みにより、わな猟を中心として一定の歯止めが掛かっているが、銃猟捕獲の担い手は伸び悩んでいる。

2 1 の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	① 令和 6 年 12 月 21 日 ②令和 7 年 1 月 18 日
場所	① 築川老人福祉センター（盛岡市） ② くずまき交流館プラトール（葛巻町）
目的	狩猟経験の浅い狩猟者に対する捕獲技術の向上等
対象者・講師 （人数も記載）	対象者：県内在住で狩猟免許を取得して 3 年未満の方（①盛岡市 35 名・②葛巻町 35 名参加） 講師：岩手県猟友会及び岩手県食肉衛生検査所職員（①盛岡市 7 名・②葛巻町 7 名）
内容	・野生鳥獣肉の衛生管理についての講義及びシカの保定・止め刺し解体に係る実践
方法	岩手県及び岩手県猟友会の共催にて実施
評価方法	狩猟免許の更新見込みにより確認
事業費	605,848 円
備考	

注 1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には本事業の目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性や事業効果の検証・測定方法等を記入すること。

注 2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

上記取組に対する評価としては、令和7年度更新予定者769人に対して更新者602人と約78%の狩猟者が更新を行っているという結果になった。これが全て上記取組の結果とは言えないものの、狩猟免許所持者の狩猟離れに対して効果を成している取り組みとなっている。また参加者は衛生的な作業方法、生きたシカを使用した保定・止め刺し・解体処理方法について技術習得を支援することができたもの思慮

来年度以降も、継続して研修会等を行う予定である。

注：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、事業目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組目的・内容の改善点や今後の狩猟者育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。